

第6回 磐越東線活性化対策協議会 総会 議事録

1 日時 令和8年3月16日（月）10時20分～12時00分

2 場所 田村市役所 301会議室

3 参加者

【構成員】

所属名	職名	氏名	備考
郡山市	副市長	齊藤 紀明	代理出席
いわき市	市長	内田 広之	
田村市	市長	白石 高司	
三春町	町長	坂本 浩之	
小野町	町長	村上 昭正	
福島県	生活環境部生活交通課長	佐藤 知憲	代理出席

【オブザーバー】

所属名	職名	氏名	備考
東日本旅客鉄道株式会社東北本部	企画総務部企画部長	石川 文雄	
福島県県中地方振興局	次長	仁井田 聡	代理出席
福島県いわき地方振興局	局長	根本 和代	

4 配布資料

- ・ 資料1：第6回磐越東線活性化対策協議会総会 議案書
- ・ 資料2：第6回磐越東線活性化対策協議会総会 説明資料
- ・ 資料3：磐越東線「夜桜マップ」

5 概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 報告事項
 - ① 磐越東線の現状について
 - ② 令和7年度事業実績について
- (4) 協議事項
 - ① 令和8年度事業計画（案）について
 - ② 令和8年度収支予算（案）について
- (5) 意見交換
- (6) その他

(7) 閉会

6 協議事項

- (1) 令和8年度事業計画（案）について
⇒ 原案のとおり承認された。
- (2) 令和8年度収支予算（案）について
⇒ 原案のとおり承認された。

7 意見

(いわき市 内田市長)

- ・一年を通して、月に1回～2回は必ず新聞やテレビなどの媒体で磐越東線を発信していければ、それを見た人が行ってみたいと感じ、磐越東線の利用促進に繋がるのではないかと。
- ・いわき市で盛んなコスプレやサイクリングを鉄道と組み合わせて各地で実施し、盛り上げていければと思う。
- ・SNSなどを見ていると、多くの場所を巡ることよりも、「ここでしかできない体験」が求められていると思う。それが日本国内外から観光客を惹きつけ、インバウンドの成立につながっていると感じる。磐越東線においてもこうした流れを踏まえるとともに、デスティネーションキャンペーン（DC）という追い風を活かしながら、どこに焦点を当て、春夏秋冬のストーリーとして繋げていくかを検討していきたい。

(郡山市 齊藤副市長)

- ・ 現在、郡山駅周辺の再開発にあわせて駅前広場もリニューアルを進めている。観光客向けのイベントの実施や来訪のきっかけづくりの場として郡山駅前を活用してほしい。
- ・ DC期間中には、郡山歴史情報博物館において「ゆる鉄のまち・こおりやま」、また郡山市立美術館において「北斎・広重 大浮世絵展」を開催する。ぜひ磐越東線を利用して来訪していただけるよう取り組みたい。

(田村市 白石市長)

- ・ 来年度も、企画列車の運行をはじめとした様々な企画を予定している。実施にあたっては、沿線自治体とも連携して実施していきたい。
- ・ 様々なジャンルでの取組みに挑戦していかないと、効果が上がらないと思う。

(三春町 坂本町長)

- ・ 磐越東線は運行速度が高速である。高速バスとのダイヤ調整により、磐越東線と高速バスのいずれかを利用して、いわき一郡山間を常時移動できるようにすれば、磐越東線の魅力がさらに高まるのではないかと。
- ・ 企画乗車券の販売や、高速バス会社とのタイアップを行ってはどうか。

(小野町 村上町長)

- ・ 夏井千本桜の開花にあわせて、夏井千本桜フェスタ 2026 を開催予定である。その中で、コスプレイベントなども実施予定である。県外からも多くの申込みがあるため、鉄道と連携した誘客を図りたい。
- ・ 6月に実施予定の八重山祭りにあわせて、モニターツアーの実施を検討している。
- ・ ふくしま DC と磐越東線を組み合わせ、誘客を図りたい。

- ・企画列車として発酵列車を実施してはどうか。来年度の実現が難しい場合でも、令和9年度以降にぜひ取り入れていただきたい。
(福島県 生活環境部生活交通課 佐藤課長)
- ・令和7年11月に開催したふくしま鉄道博には、非常に多くの来場者があり、鉄道の利活用にも繋がったと感じている。
- ・令和8年度は、「ふくしま鉄道博 磐越東線利活用サミット」で出たアイデアを一過性のものにしないう、実証事業として実際に運行できるよう取り組んでいきたい。
(県中地方振興局 仁井田次長)
- ・今年度、2つの鉄道イベントツアーを企画したところ、非常に多くの申込みがあった。来年度も継続してツアーを企画する予定であり、しっかりと発信を行い、メディアに取り上げられるような企画にしたい。
(いわき地方振興局 根本局長)
- ・4月からDCが始まることから、いわき地方振興局では担当部署だけでなく、振興局全体で盛り上げていく方針である。
- ・訪れた方に再び来ていただけるリピートの確保が重要であると考えている。
(JR 東日本東北本部 石川企画部長)
- ・7月1日にJRの組織改正が行われる。福島県の管轄は現在東北本部であるが、新たに福島事業本部が設置され、福島県内において地域と連携しながら様々な施策展開していく組織体制となる。駅と支社の垣根がなくなり、要望が直接届くことで様々な検討が進みやすくなり、これまで実現が難しかったことも実現しやすくなると考えている。
- ・企画列車やイベントを含めた地域活性化については、JRとしても沿線自治体と連携して取り組んでいきたい。アイデア等があれば、ぜひ相談してほしい。
- ・いわき市を中心とした浜通り事業本部も新たに設置され、浜通り全体で福島県の活性化や人流の創出を図っていく。
- ・将来的な交通体系については、利用者のニーズ等を踏まえ、国・県・自治体と十分に議論していく必要がある。

7 会議状況



以上